屋外ドローンショー 参入

ロボッツ、年間100公演以上目標

市場急拡大、料金プラン三つ

美濃市、恵那市を拠点にドローン事業を展開するＲＯＢＯＺ（ロボッツ、名古屋市中村区）は9月から、屋外ドローンショー事業に参入する。初年度、全国で20公演、２０２６年度以降、年間１００公演以上を目標に掲げる。市場が急拡大するドローンショーの需要を取り込み、30年7月期に売上高30億円を目指す。（野中準二）

屋外ドローンショーの参入に向けて、4月に新たな事業部「ＲＯＢＯＺエンターテイメント」を立ち上げて、専属で5人を配置。国内最大手のドローンショー・ジャパン（金沢市）が開発した国産ドローンを導入した。

屋外ドローンショーで使用する機体を紹介する石田宏樹社長＝美濃市曽代、ＲＯＢＯＺ美濃支店

ショーは、いずれも1公演15分以内で、３００機で税別６００万円、５００機で９００万円、千機で１７００万円からの三つの料金プランを用意した。東海地方を皮切りに、関東、関西地方で地域活性化や企業のイベント、スポーツ、音楽フェスティバルでの受注獲得を狙う。

ドローンショーは音楽に合わせて、ドローンの隊列が夜空に絵や文字を描く空中ショー。国内では東京五輪の開会式を機に注目され、屋内のショーと合わせて市場規模は24年度が約20億円、30年度は約１００億円と見込まれている。

ロボッツは、ドローンのライセンススクール、インフラ点検や空撮、機体の販売を手がけ、25年7月期の売上高は約1億7千万円。23年に屋内ドローン事業に参入し、国内最多の年間約１００公演を手がけている。石田宏樹社長(50)は「ドローンショー事業を通じて、地域や観光の活性化に貢献したい」と話している。

無断複製・転載を禁じます